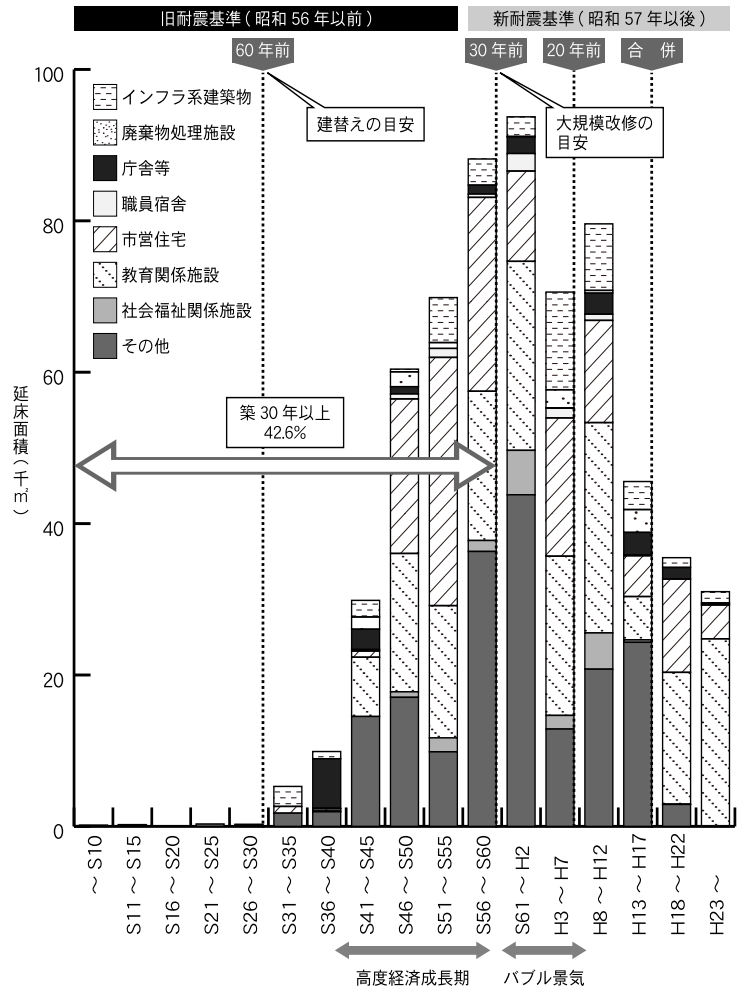


建築年度別に見た延床面積の分布



進む老朽化

岩見沢市の公共施設は、高度経済成長期の終わりからバブル景気の時期にかけて多く整備されており、今後、これらの施設は大量更新の時期を迎えます。一般に鉄筋コンクリート造の建築物の場合、築30年で大規模改修が、築60年で建替えが必要になると言われています。このことを岩見沢市の公共施設に当てはめると、4割以上の施設が大規模改修の目安となる築30年を経過しています。また、今後10年間で7割程度の

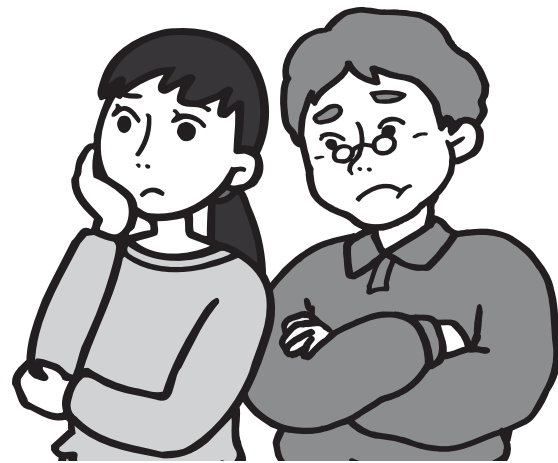
施設で大規模な改修が必要となり、今あるすべての公共施設を維持していくためには、財政面に大きな負担がかかっていくものと考えられます。

施設の保有量が同じとすると…

岩見沢市の総人口は、平成7年の9万7千42人をピークに減少しています。国立社会保障・人口問題研究所の将来人口推計結果によると、平成52年には6万5000人程度となる見通しとなっています。

これを市民一人当たりの施設面積

次世代へ最適な 公共施設を 残すために



市は、さまざまな市民ニーズに対応するため、これまでに小・中学校、市営住宅などの建物や道路、橋、水道、下水道など、多くの公共施設を整備してきました。これらの公共施設は、市民の皆さんの生活を支える大切な役割を担っています。

しかし、今後、公共施設の老朽化が進み、維持や更新のための費用が増えていくことが予想されています。さらには、人口減少やニーズの変化にどのように対応していくのか、全国的に課題となっており、岩見沢市も例外ではありません。

市民共通の財産である公共施設。今後どのように将来世代に残していくべきなのか、皆さんと考えていきます。

札幌ドーム43個分

市が保有する建物は、約400施設あり、延床面積では合計で約62万㎡。これは札幌ドーム43個分に相当します。このうち、病院や水道、下水道などの公営企業の財産や行政サービスに直接使っていない財産（廃校舎など）を除くと49万㎡で、これは市民一人当たり換算すると5.7㎡となり、全国平均の3.4㎡（東洋大学PPP研究センター調べ）よりも広い面積となっています。

また、割合としては、教育関係施設（小・中学校など）が公共施設全体の延床面積の約30%（約19万㎡）、市営住宅が約24%（約15万㎡）を占めています。

で考えると、現在の5.7㎡が、平成52年には8㎡に増えることになり、このことは、施設を維持していくための市民一人当たりの実質負担が増加していくことを意味します。

まず「第一段階」として…

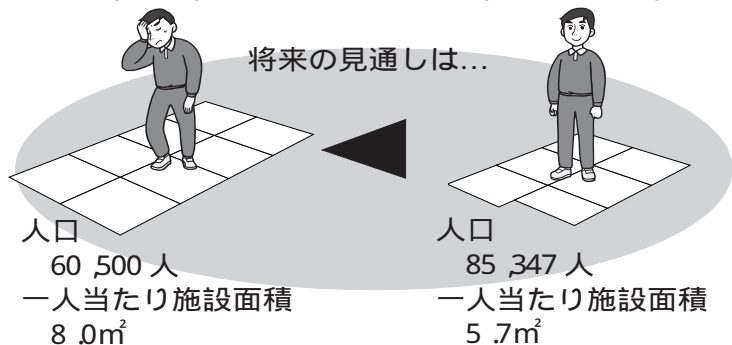
公共施設の老朽化、そして人口の減少が進む中で、市民サービスや健全な財政を維持していくためには、公共施設の集約化や複合化、長寿命化の取組みを進め、改修や建替えを計画的に実施していく必要があります。そのため、市は、今後の公共施設

設の最適化に向けた取組みの基本方針として、岩見沢市公共施設等総合管理計画の策定を進めます。これは、公共施設の最適な形を検討していくための「第一段階」として、その後の個別施設に関する詳細な検討・計画を進めるにあたっての基本的な考え方を示すものです。公共施設は市民共有の財産であり、市は、市民の皆さんと情報共有を図りながら、計画の策定を進めていきます。

問合せ先 市企画室

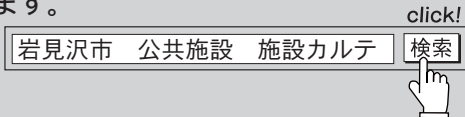
平成27年（推計）

平成27年（5月末現在）



施設カルテを見ませんか

公共施設の在り方を考えるには、まず、公共施設の現状を知っておくことが必要です。そのため、設置目的や構造、維持管理に係る経費や利用状況を施設ごとにまとめた「施設カルテ」を市ホームページ上で公開しています。



この「施設カルテ」は、今後の計画策定にあたって各施設の評価などに活用します。